



第23回 大学教育研究フォーラム 参加者企画セッション
「学生の成長を可視化し、教育の質保証へつなげるために必要なこと」

【指定討論】 共同研究の成果をFD実践に どう活かすか？

関東学院大学 高等教育研究・開発センター 専任講師 奈良堂史

E-Mail <nara@kanto-gakuin.ac.jp>

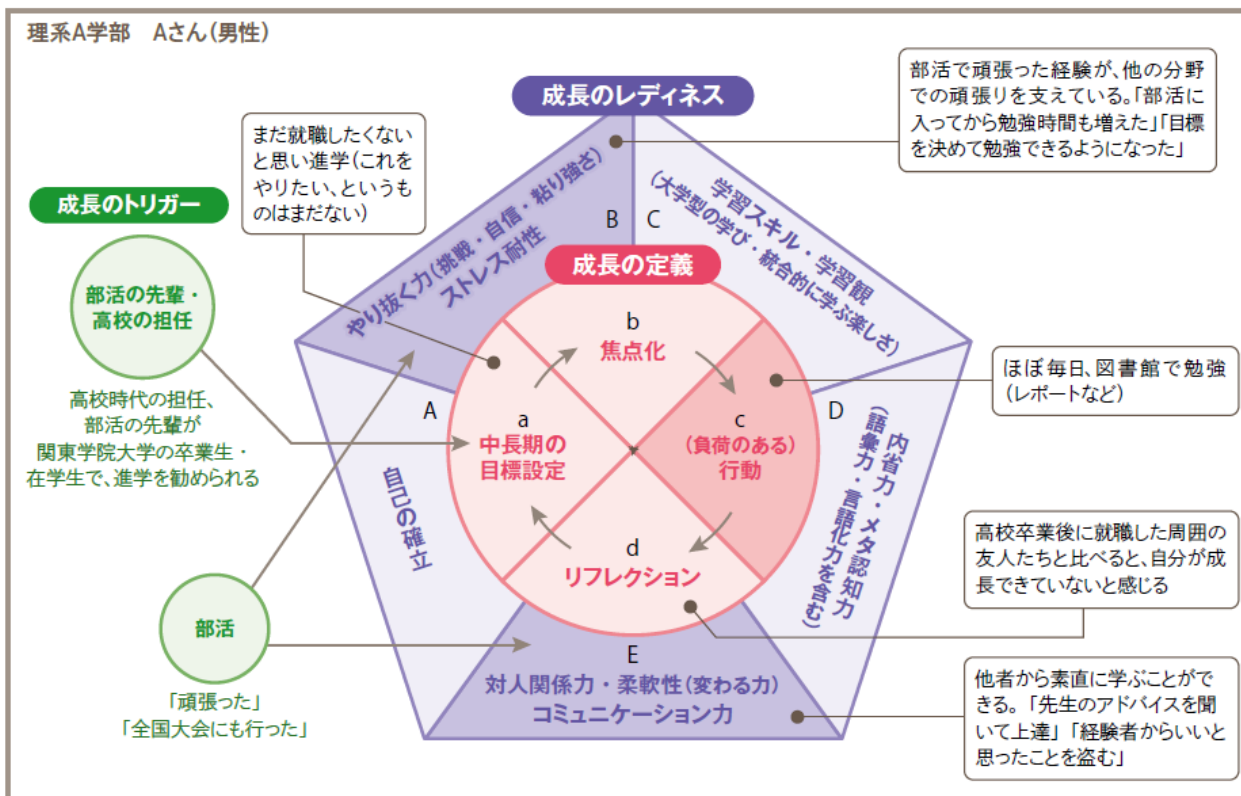
(1) 指定討論者に与えられた役割

今回の共同研究の成果を、将来的にカリキュラム・授業改善など、**どのように大学全体の仕組みの中に活かしていくか、私見を述べること。(特に、マイクロレベルのFD活動)**

■ 図4-1 第2次インタビュー調査における「成長」の個人別プロセスモデル (例)

※インタビュー内容をもとに、良い状態にあると考えられる要素に濃い色付けをしている

(出所) 岡田報告スライド19頁より再掲



課されたものはコツコツ、しっかりと取り組んでいるAさん。一方、「これがやりたい」という自分の思いに基づく行動や、成長を実感する場面はまだ少ないのかもしれない。

(2) 本学における質保証体制の整備状況

● 認証評価結果（大学基準協会）

2014年 3月27日

基準4 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

学位授与方針については、学生に修得させるべき知識・能力を見極めることが難しい内容である。教育課程の編成・実施方針についても、具体的に捉えにくい内容にとどまっている。各方針の内容や要素・構成については、各学部・研究科によって大きく異なっており、学位授与方針や教育課程の編成・実施方針そのものの考え方に差異があるので、全学的に合意を形成し、適切な方針を策定するよう、改善が望まれる。

「関東学院大学に対する大学評価（認証評価）結果」3頁より引用

- 全学3ポリシー再策定 2014年10月
- 各学部3ポリシー再策定 2015年 5月
- カリキュラムマップ完成 2017年 1月
(チェックリスト型・フローチャート型の2種類を作成)
- シラバスチェック第3段階の実施 2017年 2月

(3) 質保証へ向けた本学の課題

① D P の達成度の測定・検証

⇒卒業時点でのアセスメントの実施？

⇒測定困難な項目をどうするか？

② 各学年ごとのD P 到達水準（マイルストーン）の設定

⇒学年ごとのアセスメント科目の設定？

③ 学生への「成長の可視化」と課題設定

⇒学生カルテ、ポートフォリオ？

(4) まずは、何から始めるべきか？ **(本学の実践事例)**

1. 大学全体・組織レベルでやるべきこと

⇒**質保証への体制整備、全学的な合意形成**

2. 個々人の教員でできること

⇒**4年間で何を学び、どのような能力を身につけるのかを語れる学生にすること**

⇒**少なくとも、個々の担当講義で「何のために、いま教室に来ているのか」を問う**

⇒**C-map、シラバス、初回授業の改革**

(5) 初回授業の改革

① 学生は、自身の目標や課題を意識した履修行動をとっているか？

⇒ 質保証の問題点は、初回の欠席という現象に端的に表象？

■ 教員 ①履修登録期間中のため学生があまり来ない→②初回から本題に入れない→③シラバスの説明を中心とするガイダンスで初回授業を構成→④結果として短時間の講義

■ 学生 ①短時間のガイダンス→②出席しなくてもOKという認識（履修登録前の“お試し期間”の認識）→③ますます出席しなくなる→④学ぶ目的意識や価値が見えない→⑤意欲が高まらない

② 初回授業のプロトタイプの開発

⇒ 初回配布用の「詳細シラバス」の執筆を推奨

⇒ 全キャンパスでのシラバスライティング講座開催

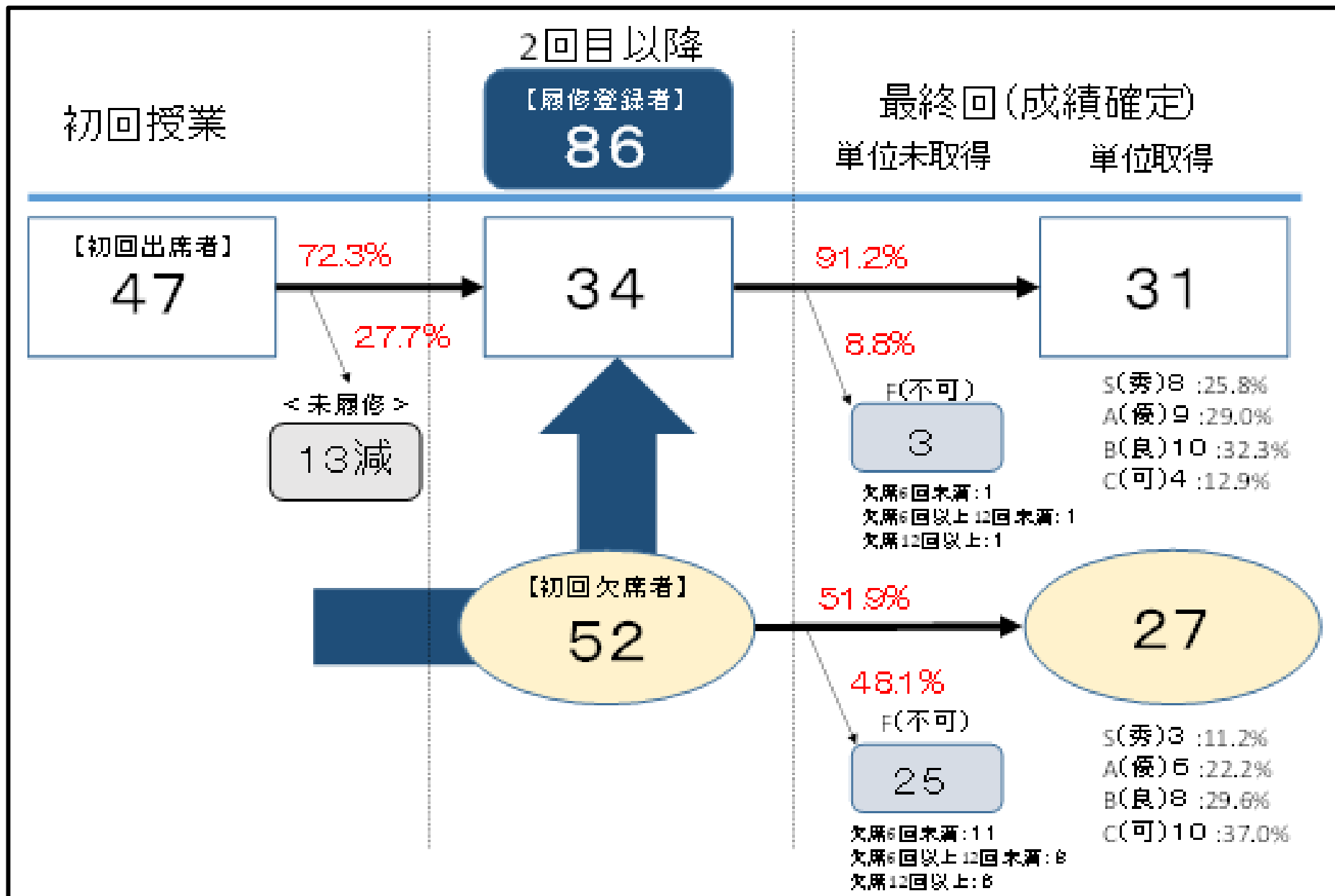
⇒ 「シラバスの内容確認GW」「自分だけの到達目標」

⇒ 何のために、今この教室にいるのかを明確化させる

⇒ シラバスを図表化・可視化するためのWS開催（次年度）

■初回授業への出欠席と成績評価との関係

(2016年度春学期「K G Uキャリアデザイン基礎Ⅱ」、2年次選択)



■ 初回授業のモデル

			キャリア科目型	教養・専門科目型
(1)	導入 (確認)	[5分]	科目名、教室の確認/出席確認システムのタッチ確認/簡単な自己紹介など	
(2)	受講者ワークシート・アンケート (前半)	[10分]	<p>◎質問項目…履修動機/専攻分野との関連/身につけたい能力/大学で学ぶ理由/シラバスを読んだか (科目の目的・内容・到達目標の理解確認)</p> <p>■目的 [1] 学習者としての素地 (特に関心・意欲・態度) の把握 [2] 静かな教室環境をつくること</p>	
(3)	グループワーク	[20分]	<p>テーマ:「ワークシート・アンケート (前半) の結果について、共有しよう」</p> <p>◎内容…①4~6人のグループ作成→②アイスブレイク (1人1分) →③アイスブレイクの順番に、ラウンドロビン形式で発表 (1人2分)</p> <p>■目的 [1] 学生が、自分とクラスメイトを比較すること [2] 学生が、目的をもった履修行動をとる学生と自分との違いに気づくこと</p>	
(4)	教員による自己紹介	[15分]	<p>テーマ:「私のキャリアと教育理念・哲学」</p> <p>◎内容…なぜ教員になったのか/どのような学生を育てたいのか/学生時代からキャリアを学ぶ・考える重要性 (科目特性)</p> <p>■目的 [1] 教員の自己開示による受講者との親近感の醸成 [2] 当該科目がカリキュラムに置かれている意図や背景の理解</p>	<p>テーマ:「私の研究・教育活動の紹介」</p> <p>◎内容…なぜ、この分野を専攻し、どのような研究をしてきたのか/この分野 (この授業) と社会・職業との関わり/この分野の楽しさは何か/専攻以外の学生にとっての、当該科目の教養的価値は何か</p> <p>■目的 [1] 教員の自己開示による受講者との親近感の醸成 [2] 当該科目がカリキュラムに置かれている意図や背景の理解</p>
(5)	“配付用” シラバスの説明	[30分]	<p>■目的 [1] シラバスの内容理解 (目的、到達目標、15回の構成と内容、成績評価、教材、予・復習、受講ルール等) [2] Webシラバスに掲載されていない内容 (受講ルール、出欠や遅刻、私語への対応等) の周知</p>	
(6)	ミニワーク		<p>テーマ:「自分自身の到達目標を1つ立てよう」</p> <p>■目的 [1] 目的をもった履修行動の喚起 [2] 学習の自己調整 (PDCA) を行う習慣をつけさせること</p>	
(7)	受講者ワークシート・アンケート (後半)	[10分]	<p>◎質問項目…生き方・働き方/希望進路/アクションプラン</p> <p>■目的 [1] 希望進路の把握 [2] 行動計画の有無 (プレ時点調査)</p>	<p>◎質問項目…生き方・働き方/希望進路/関連科目の履修の有無/理論やキーワードの理解確認</p> <p>■目的 [1] 希望進路の把握 [2] 受講する上での前提知識の確認</p>

(6) 教員への支援

- **教育実践力向上セミナー（兼 新任教員研修）**
 - ⇒ 教員22時間、職員11時間の受講必須
 - ⇒ シラバス、AL、ルーブリック、模擬授業、大人数授業、ゼミ運営、就職支援、LMS等
 - ⇒ 今回の研究を受けて、「データからみる関東学院生の姿」と「グラフィックシラバス」の2件を追加
 - ⇒ ワークショップ形式で開催（学部を超えた学び合い、“腑に落ちるFD研修”）

(7) 今後の課題（検討中のアイデア）

① 成長の可視化と質保証について

本学唯一の全新入生登録必須科目である「KGU キャリアデザイン入門」において、アセスメントを実施し、入学者のデータは確保。一方、卒業時あるいは各学年時のアセスメントの導入を早期に検討する必要あり。

② 卒業時のアセスメントに加え、自身の学びを総括するような授業科目を新設できないか？

⇒講義科目の「総まとめ」を行う科目（真の“総論”）

⇒第8セメスターの前半あたり（卒論大詰めの前）

⇒自分の学びを可視化・言語化するための科目

⇒学びの証拠書類を日常的に蓄積する意識・習慣づけ

⇒電子ポートフォリオの導入へ